

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	S2601
代表機関名	金沢大学
主担当研究者所属部局	薬学系
関連研究分野	医療系薬学
主担当研究者	中島 美紀
事業名	薬物動態を基盤とする医薬品の安全性に関する研究拠点形成

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 3
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画していた 4 名の派遣に対し、最終的に 300 日以上派遣した者が 3 名（准教 1 名＝306 日、助教 2 名＝350 日、477 日）となった。 ・計画どおり 3 名を招へいした。 ・派遣された若手研究者は比較的長期にわたって派遣され成果をあげており、その他の機関との共同研究にも展開され、国際学会で多数の発表があり、ネットワークの広がりが確認される。 ・派遣できなかった部分の研究については実験データの交換等で予定通り実行され、計画はほぼ達成されている。 ・3ヶ所の共同研究先のうち、派遣を行った米国の Schuetz 博士との論文がまだ報告されていない。 ・個々のテーマ別にみるとそれぞれでは成果が得られているが、4 カ所の研究リーダーが集まって話し合う機会が得られておらず、ネットワークを形成し拠点構築ができたとは言い難い。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 3
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本側研究グループの当該期間の業績は英語原著論文・総説で 100 報を超えており十分な活動実績がある。 ・若手研究者は派遣先研究者との共著論文あるいは国際学会での共著発表があり、共同研究の一定の成果が確認できる。 ・目標達成に向け連携機関と研究を行い、多くの成果をあげているが、これらの成果は個々のテーマについてのものであり、毒性に関する情報・研究の拠点形成には至っていない。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

II 今後の展望

評 点 3
コメント

- ・本事業の開始前から海外共同研究者とは親交があったが、本事業がきっかけとなり、担当研究者がメンターを務めた日本側博士課程修了者の1名が共同研究先の米国 Schuetz 博士の研究室の研究者として採用され、今後も更に共同研究が続くことが期待される。
- ・若手研究者を派遣したことがきっかけ、橋渡しとなり、新たな機関と共同研究を開始しており、ネットワークの拡大が期待できる。
- ・ネットワークに入ることに成功しているが、招へい研究者の滞在期間が短いことなどネットワークのハブとなるには今後の更なる活動が求められる。

以上のことから、今後の展望は概ね高く評価できる。

総合的評価

評 点 3

コメント

- ・若手研究者の派遣については、計画では4名派遣のところ3名に終わり、オランダのグループへの派遣が実現できなかった。また招へいについても、予定の半分程度に終わり、最終年度の3名総ての海外研究者が揃うことも実現できなかった。
- ・国際共同研究については、海外共同研究先との成果で5報発表することができており、各々の研究テーマとしての成果は評価できる。
- ・本事業開始時の毒性研究の課題をクリアできていると評価することは困難で、国際ネットワークが形成されたと判断することは難しい。
- ・今後の展望についても、各々の共同研究は進むと思われるが、ネットワークハブとなるには我が国に他国機関研究者を多数招へいするなど更なる活動の工夫が必要と考えられる。

以上のことから、総合的に概ね高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【I (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【II、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない